

市内に伝わる家康ゆかりの品々

豊年山清雲寺の寺宝

平塚市豊田本郷の清雲寺は徳川家康が鷹狩をした際の休息所といわれ、家康から賜ったとされる品々が寺宝として伝わっている。



葵紋附茶碗
(豊年山清雲寺蔵/平塚市博物館寄託)



葵紋付銚子 徳川家康が清雲寺に立ち寄り、お茶を飲んだ際に賜ったと伝えられる。
(豊年山清雲寺蔵/平塚市博物館寄託)



茶釜 徳川家康が清雲寺でお茶を飲む際に使用した茶釜と伝えられる。
(豊年山清雲寺蔵/平塚市博物館寄託)



葵紋付茶碗 平塚市片岡の宮川家に伝わる茶碗。天正 18 (1590) 年の徳川家康の江戸入城の際、先祖の宮川家嗣が吉沢村まで来た家康一行を案内し、自邸に家康が泊まったと伝えられている。
(宮川正美氏蔵)



葵紋章 平塚市豊田本郷の中戸川家に伝わる。漆塗の箱の中に透かし彫りの陶器の葵紋章が納められている。中戸川家の先祖新兵衛は徳川家康の密命で豊田本郷に移住したと伝えられる。その子伊右衛門は清雲寺逗留中の家康に近侍し、玉川(渋田川)の鮎を献上したところ、美味を賞され、田畑屋敷地のほか、さまざまな品物を賜ったという。
(中戸川忠義氏蔵)



芋巻 将軍家御膳酢である「成瀬酢」の醸造に用いられたと伝わる常滑焼の甕。中原代官成瀬五左衛門が中原御殿前の酢屋佐藤金右衛門方の酢を徳川家康に献上したところ、将軍家御膳酢となった。平塚市博物館 2 階で常設展示されている。16 世紀ころ制作。
(平塚市博物館蔵)



中原御宮記 中原御殿とその跡地に建立された東照宮の由来を記した巻物。巻頭に御殿跡地と中原の様子を描いた長谷川雪堤の彩色画が配され、続いて徳川家康の功績、家康の御殿逗留の事歴、東照宮を祀る中原住民の誠意が幕府奥儒者成島司直の筆で記されている。天保 14 (1843) 年作成。平塚市博物館 1 階でレプリカが常設展示されている。
(平塚市博物館蔵/平塚市指定文化財)

東照大権現祭



平塚市ふるさと歴史再発見事業で中原御殿に焦点が当てられたことを契機に平成 14 (2002) 年から中原地区ではじまった祭。家康の命日である 4 月 17 日またはその直近の日曜日に開催される。地区の人々が出演して家康の鷹狩行列が再現され、神輿や車山車も出る。令和 5 年度は 4 月 16 日(日)の開催予定。

プラネタリウム番組 見たか家康～家康の生涯を彩る天変

投影期間：令和 5 年 5 月 13 日(土)～7 月 16 日(日)
投影日時：上記期間内の土・日曜日 午前 11 時・午後 2 時(午前 11 時は日曜日のみ)
観覧料：200 円(18 歳未満 65 歳以上無料)
会場：平塚市博物館 3 階プラネタリウム

企画展 ひらつかの家康伝説

会期：令和 5 年 10 月 19 日(木)～12 月 10 日(日)
休館日：月曜日
会場：平塚市博物館 1 階寄贈品コーナー
※詳細は平塚市博物館ホームページでお知らせする予定です。
<https://www.hirahaku.jp/>



歴史と伝承の 聖地をめぐる

ひらつかの家康伝説マップ



NHK大河ドラマ『どうする家康』で改めて注目される徳川家康。

徳川家康は現在の平塚市立中原小学校の地に造営された中原御殿を拠点に、しばしば鷹狩をおこないました。そのため平塚市内には家康にまつわる多くの伝説が生まれ、家康ゆかりといわれる場所や品物が伝えられています。

それらの伝説には史実と確定できないものもありますが、そのような伝説が伝えられてきたこと自体が地域の歴史的な特色といえます。

このマップを手に、地域の人々の家康への思いに触れてみてはいかがでしょうか。

なかはら ごてんあと
① 中原御殿跡

平塚市御殿2丁目8-9 平塚市立中原小学校



慶長元(1596)年に造営された徳川家康の宿所。家康の鷹狩の際の休息所とされていた豊田本郷村の清雲寺が、文禄4(1595)年に水害にあったため、砂丘上の中原の地に造営された。

中原御殿は周囲に土塁と堀をめぐるし、御殿造営と合わせて中原宿の集落も作られた。家康は中原御殿を拠点に周辺へ鷹狩などを行ったため、平塚市域には家康に関する伝説が多く生まれることになる。家康没後、将軍の御殿利用はなくなり、明暦3(1657)年に御殿は解体された。現在、中原御殿跡の大部分は平塚市立中原小学校の校地になっている。

【交通】最寄りバス停「中原御殿」より徒歩3分

ほうおんざんらいこういんあみだじ
⑭ 報恩山来迎院阿弥陀寺

平塚市平塚3丁目5-23



天正18(1590)年の関東入国の際に家康が立ち寄り昼膳を食したことから、翌年寺領10石を寄進されたと伝えられる。また、中原御殿からの鷹狩の際にも家康は当寺に立ち寄り、茶を飲み、その時に茶碗2つ・茶入れ・茶筌・霰釜を賜ったという。

【交通】最寄りバス停「柳町」より徒歩3分

はちおうじじんじゃ
⑬ 八王子神社

平塚市見附町40



八王子神社は文政8(1825)年までは東照宮と呼ばれていた。かつては安永7(1778)年の「東照大権現」銘の棟札が安置されていたが、戦災で焼失した。この地が家康の鷹狩の休息地、また、家康の神柩が久能山から日光へ改葬される時の小休地であったことから、平塚宿の笹尾隼人正成

という人物が勧請したと伝えられる。平塚宿の笹尾家では、毎年4月17日の家康命日に「出世汁」または「遺徳汁」と呼ばれる汁を作り食べていた。これは家康出世の祝い汁とされ、味噌汁に焼き豆腐・露・そら豆・筍・大根を入れたものであったという。

【交通】最寄りバス停「八間通り」より徒歩2分

しのみやわたさかぶね
⑫ 四之宮の渡しと逆さ船

平塚市四之宮4丁目20地先



徳川家康が江戸へ行く途中、四之宮で渡し船に乗り、舳の方に座った。船頭は恐縮して舳の方から船を進めた。家康が

これを怪しみその理由をたかすと、船頭は「君公に尻を向けるのは恐れ多いから」と答え、家康に褒められた。それから四之宮では渡船に馬船という舳を角形に造った船を用いるようになったという。

【交通】最寄りバス停「前鳥神社前」より徒歩7分

こまがえはし
⑪ 駒返橋

平塚市田村5丁目10-14先



家康が中原御殿から鷹狩に訪れた際、道がぬかるんでいたため村民が家々の畳や蓆などを道に敷いて出迎えていた。これを見た家康は心苦しく思い、この場所にあった橋から馬を返して中原に帰ったという。

【交通】最寄りバス停「駒返橋」前

たかおとしはし
⑩ 鷹落橋

平塚市田村9丁目1-1先



徳川家康が鷹狩に訪れた際、獲物を追っていた鷹が羽を損じ、この場所にあった橋に落ちたといわれる。

【交通】最寄りバス停「農協神田支所前」より徒歩1分

だいじょうざんしんぼうじ
⑨ 大上山真芳寺

平塚市大神2138



真芳寺の寺領は徳川家康が境内の平松の下で休息した時、杖の先で範囲を指し示したと伝えられ、「御杖先御朱印」と呼ばれた。敵に追われた家康が真芳寺で助けられた礼として寺領を寄進したとの言い伝えもある。また、かつて「開かずの門」とされた表門があったが、家康をかかまって門を固く閉じ、敵を入れなかったことによるとも言われる。

【交通】最寄りバス停「真芳寺」より徒歩2分

とうしょうぐう
② 東照宮

平塚市中原3丁目20-16 日枝神社境内



東照大権現(徳川家康)を祀る神社。寛延4(1751)年10月に中原の人々により勧請されたといわれる。もとは中原御殿跡地にあった。

明治42(1909)年7月の大野村立尋常中原小学校の中原御殿跡地への新築・移転にともない、日枝神社へ遷座・合祀され、現在も同社境内に祀られている。

【交通】最寄りバス停「中原上宿」より徒歩3分

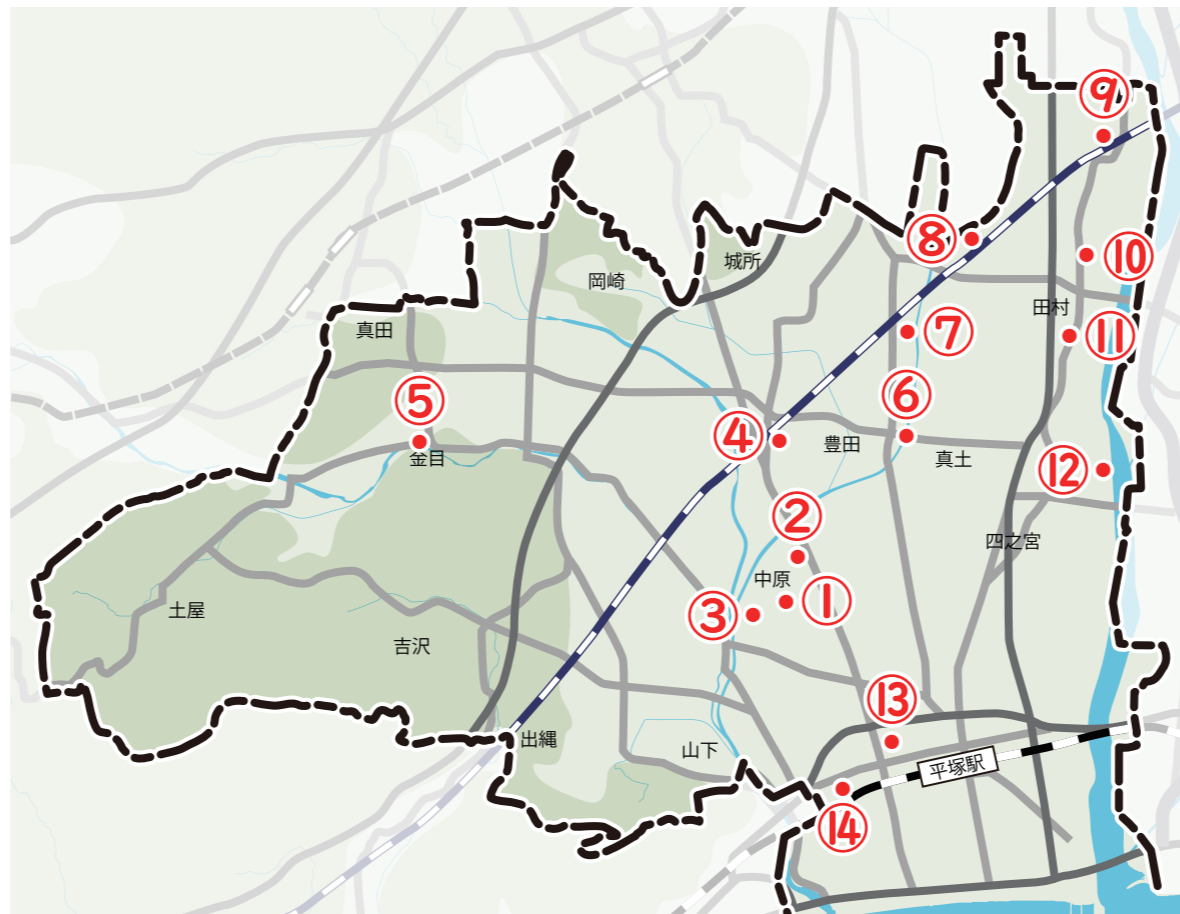
なんげんざんえいりんいんぜんとくじ
③ 南原山永琳院善徳寺の山門

平塚市南原3丁目2-7



善徳寺の山門は、明暦3(1657)年に中原御殿が取り払われた時に、御殿の裏門を移築したものと伝えられている。

【交通】最寄りバス停「南原土手」より徒歩5分



ほうねんざんせいうんじ おちゃやでら
④ 豊年山清雲寺(御茶屋寺)

平塚市豊田本郷1760



慶長元(1596)年の中原御殿造営以前から徳川家康の鷹狩の際の休息所と伝えられる。

境内の井戸の清冷な水で家康が茶を飲んだことから、別名「御茶屋寺」とも称される。また、その時に家康から賜ったという葵紋の付いた茶碗と銚子、家康が茶を飲む際に

使用したとされる茶釜が寺宝として今に伝わる(平塚市博物館寄託)。

【交通】最寄りバス停「清雲寺前」前。または「西町」より徒歩3分

おおづつみ ごしょさまづつみ
⑤ 大堤(御所様堤)

平塚市南金目



文禄4(1595)年の清雲寺の洪水被害を契機とする慶長元(1596)年の中原御殿造営に合わせ、金目川の堤防も普請された。

堤防の普請は水害に苦しむ村民を憐れんだ徳川家康によると伝えられ、金目川最大の堤防である大堤は家康への敬意をこめて「御所様堤」または「御所様御入国以来之堤」とも呼ばれる。

【交通】最寄りバス停「北金目入口」前

たかじょうばし
⑥ 鷹匠橋

平塚市西真土2丁目2



渋田川に架かり、西真土と豊田打間木をつなぐ橋。徳川家康の鷹狩の時に鷹匠が川を渡るために橋を架けさせたところから名が起ったと伝えられる。

【交通】最寄りバス停「湘南車検場前」より徒歩4分

はちまんじんじゃ
⑦ 八幡神社

平塚市下島626



徳川家康が鷹狩をしていると、鷹がそれで下島村の八幡神社の神木にとまってしまった。そこで当社に祈願したところ、たちまち鷹が戻ってきた。これを喜んだ家康は1石5斗の社領を寄進したという。

【交通】最寄りバス停「下島」より徒歩3分

ろくべえとて
⑧ 六兵衛土手

平塚市大神と横内・田村4丁目の境



玉川の洪水から横内・田村を守るため大神村境に築かれた控え土手。もと徳川家康の家来で横内に土着した平井作右衛門が、家康に堤防構築を願い出て築かれたと伝えられる。六兵衛とは玉川の水門近くに住んでいた人の名前であるという。

【交通】最寄りバス停「横内上」より徒歩5分